

習近平の戦いの相手は米国でも民主国家でも、香港でも台湾でもありません。

中国の若者との戦いかいです。世界を黙らせる権力者でありながら、若者に食べ物を粗末にしないように注意しても言うことを聞かないのです。

子どもを育てるには家庭と学校（教会）の2方面で行わねばなりません。家庭はいわば実戦場です。勝つときもあれば負ける時もあります。そこで、食べること、着る事、話すこと、遊ぶこと、学ぶことを体験するのです。親も子も最初で最後の繰り返すことの出来ない戦いをしているのです。

しかし、学校は親のように毎日、24時間子どもを教育できませんが1サイクル（6～9年）の間隔で生徒を客観的に観察し、指導するのです。大学を卒業して教諭になるとしたら5サイクル（30年）にわたって子どもを教育できるのです。ゆえに、坪田栄さんが書いた「二十四のひとみ」のように最初の教え子の子どもを教えることもあるのです。そして失敗をこやしにして、より良い教育に成長させることも可能です。こうして教育を施された子どもが、初めて自分のすべきことを行う責任感を身に着け、自由を享受できる人格者に成長するのです。